

WEEKLY SIGNAL

平成28年9月30日(金) 1343号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

| | 10/3(月) | 10/4(火) | 10/5(水) | 10/6(木) | 10/7(金) |
|--------|-------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 無担保O/N | | | △0.086% | ～ | 0.001% |
| 銀行券 | + 1,100 | + 1,000 | ト | ン | △ 1,000 |
| 財政他 | △ 24,800 | △ 31,000 | + 1,000 | △ 24,000 | △ 1,000 |
| 資金需給 | 不 23,700 | 不 30,000 | 余 1,000 | 不 24,000 | 不 2,000 |
| 主な要因 | 国庫短期証券発行・償還(3M) | 法人税・消費税・保険揚げ | | 国債発行(10年) | |
| オペ期日 | 共通担保(全店) △ 4,500 CP等買入 △ 100 国債補充 + 4,400 | | | | 共通担保(全店) △ 100 |
| オペスタート | 共通担保(全店) + 1,900 | 国債買入 + 7,300 短国買入 + 17,500 | | | |
| (日本) | 日銀短観(9月) | 日銀短観の企業の物価見通し マネターベース(9月) 消費動向調査(9月) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額 | 日銀当座預金増減要因 (10月見込み) 基調的なインフレ率を 捕捉するための指標 | 対外対内証券売買(前週分) | マネターベースと日銀の取引(9月) 営業毎旬報告(9月30日現在) 景気動向指数(8月) コール市場残高(9月) |
| (海外) | 米 ISM製造業景況指数(9月) 欧 ユーロ圏製造業PMI (9月改定値) | 米 リッチモンド連銀総裁講演 米 シカゴ連銀総裁講演 IMF 世界経済見通し公表 欧 ユーロ圏生産者物価指数(9月) | 米 ADP雇用統計(9月) 米 貿易収支(8月) 米 ISM非製造業景況指数(9月) 米 リッチモンド連銀総裁講演 米 ミネポリス連銀総裁講演 欧 ユーロ圏総合PMI(9月、改定値) 欧 ユーロ圏小売売上高(8月) NZ シカゴ連銀総裁講演 | 米 新規失業保険申請件数 米 G20財務省・中銀総裁会議 欧 ECB議事要旨 | 米 雇用統計(9月) 米 FRB副議長講演 米 クリーブランド連銀総裁講演 米 カンザスシティ連銀総裁講演 米 ブレイナードFRB理事講演 米 IMF・世界銀行の年次総会 |

【インターバンク市場】

| 無担保ターム物 | 予想レンジ |
|---------|---------------|
| SPOT 1M | △0.05 ~ 0.001 |
| SPOT 2M | △0.05 ~ 0.001 |
| SPOT 3M | △0.06 ~ 0.001 |
| SPOT 6M | △0.06 ~ 0.001 |

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初312兆6,000億円から始まり、週央の国債買入オペ・国庫短期証券買入オペを主因に増加、311兆8,400億円で越えた。

無担保コールON物は、概ね△0.065～△0.03%のレンジで取引された。週初△0.05%となった同加重平均金利は、旺盛な調達意欲を背景に日々地合いが強まったことで、29日には△0.037%まで上昇した。しかし、四半期末日となる30日には、調達を控える動きが見られ△0.060%まで低下した。

ターム物は、期内物のショートターム、四半期末越物となる1W～2Wで△0.035～△0.02%を中心に取引された。

来週の予定は、国内では、日銀短観(3日)、景気動向指数(5日)、海外では、FOMCメンバーによる講演(4、5、7日)、G20財務省・中銀総裁会議(7日)、米国雇用統計(7日)などが挙げられる。

【オープン市場】

| | |
|------------|-----------------|
| CP3M(a-1+) | 0.000 ~ 0.005 |
| TDB 3M | △0.500 ~ △0.300 |
| 現先(on/1w) | △0.100 ~ 0.000 |

<CP>

今週の入札発行額は約12,600億円で、期落ち額約25,700億円(金融機関・ABCP除く)を下回った。期末の有利子負債削減で、大幅に償還超となった。

a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。

現先レートの中心は、-0.100%～0.000%程度で推移した。

来週の期落ち額は3,200億円程度となっている。

<TDB>

29日に国庫短期証券3M第636回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.3407%(前回債△0.3066%)、平均落札レートは△0.3547%(同△0.3286%)と前回債と比べて利回りは低下した。セカンダリーは3Mで△0.41%近辺の地合いとなっている。6M、1Yは目立った場合は見られなかった。来週5日に6M、6日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許 GC は週初△0.075～△0.085%の出合いからスタート。9月末取引となる30日受渡では、資金調達ニーズが限定的で△0.25%～△0.30%台での出合いとなったが、10月受渡以降は週初同レベルの△0.08近辺までレートを戻した。週末には短国買入オペが17500億オフアールされ、△0.085%～△0.09%に小幅低下し越えた。

SC は 2 年債、10年債カレント近辺の引き合いが多く、10年344回債は週末△0.20%～△0.30%の出合いが見られた。その他 5 年 127・128 回債、10 年 321・327・328・329・330・332・336回債、20 年 155・156・157 回債、30 年 49・50・51 回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。